

令和7年11月12日

秋田しらかみ看護学院
学院長 近藤美喜 様

学校関係者評価委員会委員長

学校関係者評価委員会報告

令和6年度「自己点検・自己評価に対する学校関係者評価」について、下記の通り
評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員会 委員

委員長 1名
委員 2名

2 学校関係者評価委員会審議日程

令和7年10月2日（木） 自己点検・自己評価の送付
第1回 令和7年11月4日（火） 自己点検・自己評価の評価・提出ならびに審議

3 学校関係者評価委員会報告

別紙の通り

令和6年度「自己点検・自己評価に対する学校関係者評価」一覧

令和7年11月12日

I 教育理念・教育目的

3.7	<ul style="list-style-type: none">・卒業後、学生の63%が県内の医療機関で働いているということは、教育目的である地域に貢献できる看護師の育成を実現している。・変化する社会に貢献を積極的にしている。・学校としてはいろいろな機会に教育理念や目的について説明、意識して学ぶよう指導しているが、今ひとつ響いていない学生が多くなってきているよう。新入生はなんといっても10代が大多数だから今後の世代(時代)への研究・研修も必要になってくるのかもしれない。
-----	---

II 教育課程

4	<ul style="list-style-type: none">・2022年4月にカリキュラムが改正され、教育内容や時間数の見直しを行い、教育目的・アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・期待される卒業生像を再構築し、工夫が施されている。・カリキュラムポリシーに沿った教育をしている。・教員・学生ともに教育課程についての評価は高かったので適切と言える。
---	---

III 教育活動・教育指導のあり方

4	<ul style="list-style-type: none">・国家試験合格に向けて、対策委員を任命し集中講義とも言える補講やグループ学習、マンツーマン学習を粘り強く実施するなど、教員の並々な情熱と指導には頭が下がる思いである。・学生たちと積極的に向き合う努力をしている。・レベルに差がある学生が年々増える中、教員は創意工夫して学生に寄り添おうと努力している。学生数の確保と教育活動・指導のあり方とのジレンマを感じる。
---	--

IV 組織・管理運営

4	<ul style="list-style-type: none">・各部署がスムーズに機能し運営されていると思う。・シラバスの内容が充実し組織・管理の運営がなされている。・組織的にはしっかりしており全く問題ないと思う。
---	--

V 学生生活への支援

3.7	<ul style="list-style-type: none">・学生の健康管理をととても細やかに実施している。学生保健委員の活動もまた健康への啓発活動として意義のあることだと思う。・学生の生活環境を考慮した支援が行われている。・学生はボランティア・献血・学院祭・自治会主催の行事などお膳立てされた社会活動にある程度満足しているようだが、自分がやりたいこと好きなことに使える時間が少しでもあれば学業とのメリハリをつけられるのかもと感じる。
-----	---

VI 施設設備

3.7	<ul style="list-style-type: none">・専任の司書を配置しての図書室は充実していて学生にも有効利用されている。・学院内に独自の図書室が設置されていることは、大変有意義だと思う。・図書室も充実しているし教材も充実している。司書も適切に必要な教材を探してくれているので適切と思うが、卒業時アンケートで図書室が使いにくかったとか冬季の学内環境が寒すぎるとの意見が気になる。
-----	--

Ⅶ 学生の受け入れ

4	<ul style="list-style-type: none">・学校訪問する際に、現在看護師として地域で頑張っている卒業生も同行して、現場の生き生きとした様子や学院時代のお話をする機会があればいいと思う。・奨学金支援、経済支援など適切にされている。・全般において万全の支援サポート体制にあると思う。
---	--

Ⅷ 卒業生の状況

3.3	<ul style="list-style-type: none">・過去に遡っての調査は大変だと思うが卒業生の現況を知ることを今後の課題の一つとしてやっていただきたい。・1・2年生就職説明がなされ、求人情報も定期的に行われ学生の目的意識など醸成につながると思う。・(期待する卒業生像)の到達度に関する卒業時のアンケート調査、卒業後の状況把握、教育評価の分析まで時間的、事務的労力が中々難しいとは思いますが努力していただきたい。
-----	--

Ⅸ 社会への貢献

3.7	<ul style="list-style-type: none">・能代の花火、天空の不夜城にボランティアとして参加していることは、地域社会になじむとともに学院のある種、広報活動にもなるのではないかと思います。・1年生で「地域」を学ぶ地域・在宅看護論は社会貢献として大変有意義だと思い、消防団の共助も継続して欲しい。・多くの学生がボランティアや献血・学院祭・自治会主催の行事等に参加できて満足しているよう。消防団入団もその1つ(あまり活動はないようだが)社会へ貢献している様子はホームページ等で発信しているのか。
-----	---

X 研究・研修活動

4	<ul style="list-style-type: none">・教員の研修への派遣や通信教育の受講で専任教員の資格取得などよりよい教育指導の充実が整えられている。今後ますますの教員のスキルアップを切望します。・2年生、3年生は実習に入り、研究研修の時間が少なくなりますが、1年生は自己啓発や目標の達成のために実践していただきたい。・多忙な中、各種委員会や研修に参加されていて適切と思う。
---	--

その他

	<ul style="list-style-type: none">・10月22日付の北羽新報に学院祭の様子が記載されていた。残念ながら行けなかったが実行委員会の創意工夫で楽しい様子が伝わってきた。・オープンキャンパスも実行委員が中心になって看護の魅力を十分に伝え充実感を味わったようである。OBの出番もあったようで来年は是非訪れたい。・今年も「地域在宅看護論実習Ⅰ」の協力をさせていただき、学生たちと関わったことを大変うれしく思います。ほとんどが能代山本地域出身、郷土愛を感じました。・地方の人口減少は著しく、看護の担い手確保も大変だと思うが、「地域」が生き残るためにご尽力いただきたい。
--	--